



インテリアはスタンダードにオプションのセンターコンソールといった趣。タコメーターは現在オートメーター製だが、外したラリー・バックも取ってあるという。純正サイズのカセットデッキはカスタム・オートサウンド製。



マスタングのある生活は、きっと次の世代にも引き継がれる。



神原満理奈さん

'65マスタングとの素敵な日々をInstagram [@maritang330] で発信し、アメリカ車ファンから高い人気を誇る神原満理奈さん。当日は旦那さんとともに1歳の隆良くんもママの撮影を盛り上げてくれました。



@maritang330



1965  
Ford Mustang  
2-door Hardtop  
with Marina Kamihara

に入れることを決意した。むしろ、当時05年モデルのマスタングに乗っていた旦那さんの方が躊躇したという。しかし普通に中古車ネットで探し、ボディカラーが決め手となってこの65年モデルを購入する。そして普通にトランスミッションのクーラーホースが抜けて立ち往生し、トランスミッションをオーバーホール。エンジンはお色直しを受けて、以降は大きなトラブルもなく入手してから5年の歳月を共に過ごしている。

マスター、冷却系ではアルミラジエターにデュアル・エレクトリックファンを装備し、ラジエターホースがシユリンクチユーブでクランプされているのが最新っぽい。その代わりホイールにマグナム500やシエルビー・アロイではなく、純正デザインのスタイルド・スチールを選択する。基本的にはストック状態に見えるよう気を配りつつ、でもバイナルトップは汚れてきたら自らローラーで塗っちゃう、それが満理奈さんだ。ついでに言えば、半ば別荘感覚で旦那さんの実家敷地内にガレージハウスが建てられ、いくら建築士に「いや、寒いですよ……」といわれても設計の中心に据えられたのは、普通にマスタングだった。

もちろん、普段使いするからにはキチンとそれなりの装備が施されており、現状を見ればパワーディスクブレーキやパワーステアリングのコンバージョンキット、ビンテージエアの吊り下げ式ながら小ぶりのエアコン、289ユニットにはワイエンドのインテーク・マニフォールドとホーリーの4バレル・キャブレター、点火系はMSDで強化されオルタネーターにはパワー

だんだん普通が何か分からなくなってきたが、マスタングを中心に人生を普通に楽しめば、こうなるかもしれないという一例である。

念願だったというリアデッキ・ラゲッジラックは純正オプションと同形状。当時はスキーラックも用意されていた。ホワイトリボンタイヤが似合うホイールも純正同デザインのスタイルド・スチール。

エアクリナー・ケースのレプリカステッカーが効くエンジン・ベイ。デイルードライバーを前提に吸気、点火、冷却、電装と全面的に強化が図られているものの、MSDなどはブラックで抑えられ、ベルトやホースの純正品番が映える通好みの仕様となっている。

